



助けあい物語賞

作文・エッセイの部 優秀賞受賞作品

「ボランティアを通して感じたこと」

茨城県立取手第二高等学校 第3学年

きみじま まいこ
君島 麻衣子

私は、ボランティアを通して人と関わることの楽しさを感じた。私は、もともと人と話すことが得意なほうではなく、むしろ苦手であった。しかしそれは、狭い世界での話だったのかもしれない。高齢者施設や障害者施設でのボランティアを経験し、色々な人と多くの話をする中で、自分自身の視野も広がり、一つ一つの話が新鮮に感じるようになった。

障害者施設に行ったとき、私は人がもつ様々な能力を目の当たりにした。「障害者」というだけで偏見の目で見られたり、差別されることは決してあってはならない。そう強く感じた。知的、身体的に障害はあっても、一人の人間、一つの尊い命ということに変わりはない。人には得意なこともあれば苦手なこともある。好きなこともあれば嫌いなこともある。一人一人の感じ方は、それぞれ違い、また、それも個性なんだと感じた一日だった。

人と話すときは、その人に対しての先入観を持つてはいけないと思った。「怖そう」、「厳しそう」、「自分とは合わないかも」といったマイナスな感情を持つのではなく、一人一人が持つ、その人の良い所を見つけようと思うことが大切だと感じた。

それは私達が普段過ごしている日常生活においても大切なことだと思う。多くの人と接していると、自分と合わない人も出てくると思う。しかし、それをただ「嫌いな人」とするのではなく、「この部分は苦手だけど、この部分は魅力的」と、短所ばかりを見ず、長所に目を向けることが、人と良好な関係を築く第一歩となるのではないか。

人の良い所を見ながら会話をすることで楽しさを感じると、私は思った。これからの日常生活でも、多くの人と関わり、会話の楽しさをさらに見い出していきたい。

この作文を書いた理由

ボランティア活動に参加して、自分自身視野が広がり、考え方を考えることができた。

多くの人にボランティア活動へ参加してもらえればと思い、作文を書いた。